



明に「(A)」のであって、少しも「うますぎる」訳ではない。(Y)もつと適当に云えば、既にその作品が内容と技巧と不即不離な意味の表現において失敗しているのである。と同様に、「技巧を超越した何かがある」と云うような批評も、厳密に云えば単なる比喩にすぎない。事実としてはそれが「技巧を超越した何かがある」が如き技巧である。そうして勿論「(B)」のである。

が、もし以上のほかに「うますぎる」と云う意味があるとすれば、それはそう云う批評家は、そう云う腕が嫌いなのだと解釈するほかはない。但しその場合、なるべく「うますぎる」などと云う誤解され易い語を使わない方が、その批評家の「メイコを」ホコする所以だろうと思う。

(芥川龍之介「或悪傾向を排す」による)

注

- (1) この雑誌 博文館が一八九五年から一九二八年まで発行し総合雑誌「太陽」を指す。
- (2) 里美弾 白樺派の作家。一八八八年―一九八三年。
- (3) 手合 連中の意。

国語

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 (X) (Y) にあてはめるのに最も適切な語を次のア～エから一つずつ選べ。

ア だから イ もつとも ウ そして エ あるいは

問三 空欄 (A) (B) には、「うまい」「まずい」のどちらかが入る。それぞれ適切な方を解答欄に記せ。

国語

問四 本文中には次の一文が脱落している。あてはめるのに最も適切な箇所を本文全体から探し、その直後の「五字」を解答欄に記せ。

こうなれば勿論好悪の問題だから、どうしてもその批評家の自由である。

問五 傍線部①「腕なるものに至っては、元来が「うますぎる」などと云う評語を許さるべき性質のものではない」とあるが、

(1) それはなぜか。本文中の語句を使って六十字以内で説明せよ(ただし句読点を含む)。

(2) 「うますぎる」と評された作品は、正しくはどのような作品だと筆者は考えているか。本文中の語句を使って二十字以内で説明せよ(ただし句読点を含む)。

- (二) (選択問題) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

(中井久夫「心躍りする文章」を心がけたい」一部改変による)

注 測深鍾 海中に投げ入れて水深を測るおもり。

ヴァレリー フランスの詩人(一八七一—一九四五)。象徴派の伝統をつぎ、純粋詩の理論を確立した。

ダーウイン イギリスの生物学者(一八〇九—一八八二)。進化論を首唱して、生物学だけでなく思想界にも大きな影響を与えた。

強弩 勢いの強い石弓。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で記せ。

問二 空欄(a)(b)(c)を補う語句として最も適当なものを、次の選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で記せ。

ア むしろ      イ ただし      ウ しかも      エ しかし      オ そして

問三 空欄 I II に入れるのに、最も適当と思われる四字熟語を、次の選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア 深謀遠慮      イ 本末転倒      ウ 有象無象      エ 二律背反      オ 一所懸命

問四 傍線部A「サワリ」とあるが、ここでの意味は何か。わかりやすく説明せよ。

問五 傍線部B「意識せぬところで知性の蜘蛛は糸をつむいでいたであろう」とあるが、具体的にどういうことか。問題文

国語

国語

中の語句を用いて四十字以内で説明せよ(ただし句読点を含む)。

問六 傍線部C「私は会うと決まりが悪い知人を目撃した時のようにそつと足早に立ち去るのが常である」とあるが、「私」がそのように考えた理由を、問題文全体を踏まえて六十文字以内で説明せよ(ただし句読点を含む)。

【三】(選択問題) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

為時と申す儒者の子に、惟規と申すものありき。親の、越中の守になりて下ける時に、蔵人にて、えくだらで、かぶり賜はりて後に、まかりけるに、道より、病をうけて、いきつきければ、かぎりになりけり。親、待ちつけて、よろづにあつかひけれど、やまざりければ、今は、後世の事を思へとて、枕がみに添ひあて「後世の事は、地獄、ひたふるになりぬ。中有と云て、まだ、さだまらぬ程は、はるかなる荒野に、鳥、けたものなどだになきに、ただひとりある心細さ、この世の人の恋しさ、堪へがたさ、推しはからせ給へ」などいければ、目を細めにあけて、いきの下に、「その中有の旅の空には、嵐にたくふ紅葉、風にしたがふ尾花などのものに、松虫、鈴虫の声など、聞えぬにや」と、ためらひつついひければ、僧、にくさのあまりに、あららかに、「何の料に尋ぬるぞ」と問ひければ、「さらば、それを見てこそはなぐさめめ」と、うち休みて、いひければ、僧、この事を物ぐるほしとて、逃げてまかりにけり。さる人の心ばへもありけりと、しろしめさむ料に、やくなけれど申すなり。親ありて、なほはたらかむ限りはと、思ひて添ひあて、まもりければ、二つの手をささげて、かよりければ、心も得で、見ろたりけるに、物書かむとおほすにや、人の心を得て、問ければ、うなづきければ、筆をぬらして、紙を具してとらせければ、書きたる歌、

A みやこには恋しき人のあまたあればなほこのたびはいかむとぞ思ふ

はてのふ文字を、え書かで、いき絶えにければ、親こそ、「さなめり」と申して、ふ文字をば、書きそへて、かたみにせむとおきて、常に見て泣きければ、涙にぬれて、はてには、やれ失にけりとかや。

〔俊頼髓脳〕による

注

為時 藤原為時。平安中期の漢詩人。官人。紫式部の父。

かぶり賜はり 叙爵。従五位下になること。藏人は六位。

後世 死後の世

中有 仏説で人が死んでから次の生を受けるまでの期間。

国語

問一 傍線部①を現代語訳せよ。

問二 ②の主語としてふさわしいものを次の選択肢から選びその記号を記せ。

- ア 親
- イ 越中の守
- ウ 惟規つよのり
- エ 僧

問三 傍線部③のような行動をとった理由としてもっともふさわしいものを次の選択肢から選びその記号を記せ。

- ア 死を前にした人の考えとは思えなかったため
- イ 自分の無力さを感じたため

国語

ウ 病人の最期に立ち会いたくなかったため

エ このままでは自分の考えがまとまらなくなってしまおうので

問四 傍線部④はどのようなことか具体的に説明せよ。

問五 傍線部⑤の現代語訳として最もふさわしいものを次の選択肢から選び記号を記せ。

- ア 手招きをしたため
- イ 返事をしたため
- ウ 僧を呼んだため
- エ 親の近くに寄り添ったため

問六 Aの和歌のなかで後に親の書き添えた文字を記せ

問七 「俊頼髓脳」は平安時代中期に書かれた歌論書である。この作品より前に書かれたものを選び、その記号を記せ。

- ア 無名抄
- イ 新古今集
- ウ 梁塵秘抄
- エ 枕草子
- オ 東関紀行